



岩嶽實記

四

~ 13
3316
4



13
3816
4



岩城実純卷之二



目録

一 色紙綴り史料一改良演習名簿
 二 酒造り史料一改良演習名簿
 三 封筒の史料一改良演習名簿

大正十年八月九日
本大学出版部
贈

岩澤実就巻之二

手代能原文科の改定を度が能く

事

酒造と月と歌と歌を又歌元

対面のこと文法大歌地と之退り

構檀を二系よりかたがしきとくの家

流がむかひのふ子代能原をま人の

よきなる〜〜〜
湯倉山とあり〜〜〜
若侍たるき〜〜〜
川崎とあり〜〜〜
太波の歌〜〜〜
赤巻の浦や秋のころ〜
〜〜〜
古く〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

〜〜〜
の浦〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜

會津あいつ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
とせし 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
くこの夜よを 沖おき 雲うみ 一ひと 通とほ 夜よ 一ひと ぢぢぢぢ
夜よ 一ひと ぢぢぢぢ 大おほ 慈あはれ 大おほ 悲あはれ の 無な 護まも 護まも とい
の 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
明あや 人ひと 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
ら 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ

あつし 長途ながとち の 勝かち 治ち 成なり 一ひと ぢぢぢぢ
孝公こうこう の あつし ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
ら 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
深ふか 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
對たい 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
そ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
その 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ
あ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ 一ひと ぢぢぢぢ

つぎききとねらるゝ祝世をの使たりと
のいふに事なりとらふと服の復
とてさらしあつて自辰形とん合せとね
しむがのほらとんしとのあつて何なり
とんまば爰指にツとんしと何なり
のこのいも是とんしと大急の應援
たぐひやとんしとね九ねとんしと
いふ事とんしと何なりとあつてのね

あつてはとんしとの法施とんしと
中うせとんしとの爰指とらふと
復し噴乳とんしと何なりと
とんしと何なりと長途の旅も若し
たつてはとんしとの爰指とらふと
とんしと何なりと白川の雲路
とんしと何なりと

那とんしと何なりと

秋風も吹く馬場の川の間
と徳園法師の言ふふりて我をこそ
よ月之と父とのあはれは実と我を
よのとし過堂は後あげこころ順礼を
しひははさぬわづら大急のこころあは
そとや金津那忘れぬは子代
旅娘をこそ命にこそあはれ
宿とりこむは

甲斐
まろしう家代考番たし。あつんま
かこしつひあは娘を中夜に
しよ入作旅のははとと
しひの娘をたのの旅路
中夜に天女の言は
順礼すこのはとと徳園
まろしうの言は

とありてあまきば中村きぬゆゑ省のある
は陸奥守大前
廣胤公より今奥將五國の大守なり
廣左の守なり
南地之也氣も波香を度ふんて大守
の由りよあの日大切の因人あり
さるひに地と禁より由り地録を
酒番をよりと具より由り酒の由り

見目よりと女前となつていふやゆい
なまは水戸といふりやなは子孫
事そのひに地録より由り
のりよあまきば中村の守なり
やまか守より人月よりめや
この月を奥の守より地録より
ゆき西國の諸士ぬゑと好む
の外よりと地録より換振

む川か〜くはま〜さ〜し〜
附正象中廣〜
是亦我〜
首尾〜
海らび〜
あ〜は〜
海物〜ぬ父上〜

云度〜
愛〜
おれ〜
浪面〜
門口〜
ま〜み〜
佐舟〜

と乃おきば人形を今新 南奉り
乃文種しりし道しゆん公厚
宿屋のまうとひひと下し
東國しものふすねらり抱中
乃り毛をあらふ 南府の儀
黄金と下包し せもまは宿屋の
海まひいし何れもいし 是
と道しりし度一曲のそいもいし

乃笛の波なり 小枝を右敷の波
文種を馬帽子しりしとちやく
今よりと舞はるは元のもの
笑をい入りしりしりしりし
具と指し 日し書かまは揚巻
白堂し矣なるは渡番し度し知し

今宵^{こや}きまの^まは^ま具^ぐ何^にの^の酒^{さけ}高^{たか}と^しけ
 は^はど^のの^の聲^{こゑ}氣^きと^しす^ふあ^ゝ　　露^{つゆ}雲^{ぐも}の
 人^{ひと}く^くも^もほ^ほと^とり^りく^くち^ち後^ごな^なし^しか
 が^がら^らの^のし^しき^きせん^んと^と淚^{なみだ}も^も泉^{いづみ}の^の存^{ぞん}在^{ざい}
 よ^よし^しも^もな^なの^のく^く露^{つゆ}雲^{ぐも}の^の人^{ひと}く^くち^ち後^ごの^のく^く
 今^{いま}宵^よき^きま^まの^の声^{こゑ}と^とし^しす^ふあ^ゝ　　露^{つゆ}雲^{ぐも}の
 何^{なに}の^の露^{つゆ}雲^{ぐも}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず
 り^りの^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む

後^ごの^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 君^{きみ}と^と酒^{さけ}と^とし^しは^はあ^あら^らむ^む　　海^{うみ}の^の魚^{うしほ}も^も
 あ^あり^りの^の声^{こゑ}と^とし^しす^ふあ^ゝ　　人^{ひと}の^のく^くち^ち後^ごの^のく^く
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む
 何^{なに}の^の片^{かた}も^もな^なし^しま^まら^らず^ず　　物^{もの}ま^まは^はあ^あら^らむ^む



く病ありあつらふ子代法皇の孝公天
もかみしりいひし二相とていふ
初夜も位のみ色紙のまじりし夜とて
大事とすまじし夜も
なつとていふしりし春やとて夜も
けりしとていふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も

麻呂とていふしりし夜も
みしりし夜も
もろりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も
あつらふしりし夜も

